

唾液検査による歯周病スクリーニング検査～国民皆歯科健診への提案～

栄研化学株式会社の「歯周病唾液検査用唾液採取キット」を使用した、歯周病スクリーニング検査実施後の受診者意識および本検査の将来性を紹介する。このキットは唾液を検体とした生化学検査により、歯周病リスクを判定する。

この唾液検査の最大の特徴は、唾液中 Hb（ヘモグロビン）・LD（乳酸脱水素酵素）として、結果が数値ででることにある。検査結果が数値で表されることにより、客観性および再現性が格段に向上するだけでなく、受診者にとってもわかりやすく、努力目標にもなる。

公益社団法人東京都港区芝歯科医師会では地域における公益事業として、JR 新橋駅西口 SL 広場にて、「歯周病唾液検査用唾液採取キット」を使用したイベント型の歯周病検診を実施している。本事業は鶴見大学歯学部探索歯学講座花田信弘教授（現鶴見大学名誉教授・上海理工大学特任教授）の指導、協力のもと回を重ねている。また事後アンケートにて、受診後の意識を調査。事後アンケートの結果から、唾液検査は地域住民の歯周病への関心を高め、歯科を受診するきっかけとなる可能性があり、その有用性が示唆された。

また厚生労働省の歯科保健医療施策の要でもある、生涯を通じた歯科健診（いわゆる国民皆歯科健診）推進事業が提示されている。同時に歯周病等スクリーニングツール開発支援事業も。これらの施策に対して、この唾液採取キットを使用した歯周病スクリーニング検査の有用性および優位性が、以下の理由からあると考える。

①十数年にわたり（2012 年から開始）、複数の機関、団体等での使用実績がある。

②唾液中 Hb（ヘモグロビン）試薬は体外診断用医薬品の承認をえている。

（検査試薬は栄研化学以外にもう 1 社ある。両試薬間の精度検定済み。）

いわゆる国民皆歯科健診を推進するにあたり、就労世代への効果的な歯科健診・受診勧奨の方法が大きな課題。地域というよりは、職域での応用に大きな可能性を見出している。